

グループ討議 課題

テーマ: 網羅的コンテンツ収集のための教職員へのアプローチについて

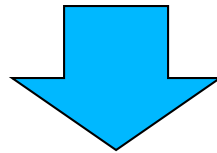
グループ名 [1E]

2018年度機関リポジトリ新任担当者研修



JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会

・紀要論文、博士論文は収集出来るが、
それ以外の資料（授業の資料など）はどう収集すればいいのか？



- ・収集方針の明文化
- ・教員への周知
 - …新任教員の説明会、ILLの受け渡しなど

教員、研究者、他部署の職員の協力が**不可欠！！**

※具体的解決策

- ・収集方針の明文化、マニュアル化、単純化によって作業の煩雑さを改善
 - ・トップダウンで強制的に収集
 - ・新任教員説明会で資料としてリポジトリについて明記した資料を配布
 - ・全教員に説明する機会をもうけて(FDなど)例示しながら説明する。根本的に機関リポジトリとはどういうものなのかを平易に説明し、理解を促す。
- また、教員にとってどのような利点があるのかを強調する
- ・他館リポジトリの事例報告
 - ・検索キーワードの提示
 - ・ダウンロード数、検索数が多い教員に対して図書館／所管事務課から周知する

「オープンサイエンス化の促進」という柱を立てて、文科省が推進しているオープンサイエンス化と、機関リポジトリ構築との関連性を強調する

・広報的観点からのアプローチ

視覚に訴える

リポジトリのリンク場所を確認！

- 1.位置は適切か
- 2.色や文字のフォントが背景に埋もれていないか
- 3.デザインに工夫がされているか(図書館キャラクター利用)
- 4.常にデータを更新し、更新情報を公開しているか

※全学的な取り組みへのアプローチ

- 1.科研費等を扱う所管事務課にリポジトリに対する理解を深めてもらう
- 2.機関リポジトリに対する認識を他部署間と共有するために働きかける
- 3.「大学全体でのオープンサイエンス化への取り組み」として
広報担当部署に認識してもらい、HP上での機関リポジトリへの
リンク先アイコンを増やす
- 4.図書館だけの問題ではなく、全学的に取り組む必要がある問題
であることを共通認識とする

研修後に実践した具体例

《江戸川大学》

大学ホームページでの機関リポジトリについての説明を全文改訂し、リンク増を検討中。

①今年6月に内閣府にて閣議決定された統合イノベーション戦略に基づき、機関リポジトリ・オープンサイエンスについて見解を確認し、その内容を把握する。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/index.html>

②研修の際に学んだ機関リポジトリ・オープンサイエンス化推進について課内で報告、出張研修報告書を上に提出。

③夏季休暇中のため限られたが、教員を対象として上記を説明、教員個人の見解を聞く。

④他部署(教学・研究に関連する部署。本学では企画総務課にあたる)の職員に対してオープンサイエンス化推進について説明し、理解を促す。図書館のみの問題ではなく、大学全体の問題であることを関係者で再認識する目的で行う。

具体的な解決策についての理由・効果

理由:論文・紀要をただ保存するだけでは意味がない

→リポジトリを積極的に活用してもらうために教職員にリポジトリを認知してもらうこと重要

効果:リポジトリについて知識を深め、活用してもらうことで、研究成果を発表する側、活用する側、双方のオープンサイエンス化の利点を実感してもらうことができる。また、**幅広いコンテンツ収集**につながるのではないかと考える。